

平成29年度 調布市立八雲台小学校 学校評価報告書

領域	自己評価結果の概要	学校関係者評価結果の概要	次年度への改善策	次年度優先順位
学力向上	<p>・調布市教育研究推進校の発表を行った。その取り組みの中で、ユニバーサルデザインの視点の授業を全校あげて推進し、全員参加型の授業を追究することができた。年間7回の研究授業、夏季休業中の模擬授業などを予定通り行い、発表に向けて着々と準備することができた。当日の参会者263名。</p> <p>・ユニバーサルデザインの授業の考え方をとくに、「視覚化」「共有化」「焦点化」の三視点から授業改善、そして、「展開1」「展開2」の授業の構造化、学習環境の整備が進み、全校が一丸となって目標に進んだことで、児童の授業参加についての変容が見られるようになった。</p> <p>・朝学習の時間は、「読書」「外遊び」「繰り返し学習」の3つを必ずどのクラスでも行う事ができるようになり、一日のスタートが落ち着いてきた。</p> <p>・全学級で月～金曜日に宿題を出すことで、家庭での学習習慣がつけられた。宿題の内容や量などは、課題も残った。</p>	<p>・既に7回実施とのこと、着実に前進しているようですね。発表会、スキー教室とパディングしているので申し訳ありません。副校長はじめ本校からも参加させていただきます。</p> <p>・研究発表会、期待しています。今年は力が入っているのが分かります。</p> <p>・家庭学習は保護者の協力も不可欠です。</p> <p>・宿題は塾に行っている子どもいるので、3日以内にとやるとか期限の短いものは大変。内容や量など幅をきかせてみるというのでは。</p>	<p>・校内研究は、29年度のUD化の授業実践の成果を生かしながら、次期学習指導要領で示された「主体的・対話的で深い学び」を実現するための研修の場とする方向で取り組んでいく。今後、アーマや教科を検討していく。</p> <p>・朝の時間の活用は29年度取り組んだ「朝読書」「朝遊び」「朝学習」の取り組みを継続するが、読書の内容・取り組みの仕方や朝学習でのベーシックドリル活用、朝遊びの内容などについて全般的な取組方向を明確にして取り組んでいく。</p> <p>・家庭学習(宿題)については、個々の児童の差や違いに配慮した取組ませ方について、検討・実行していき、習慣化を図る。</p>	B
	<p>・3学期より教師用タブレット端末を市内小学校で最初に導入していただき、教室LANを整備してもらったことで、授業に視覚的な教材や支援を使うことが日常化した。</p> <p>・ユニバーサルデザインの授業の取り組みによって、意見交換や話し合い活動がよく取り入れられるようになった。ペアでの話し合いはよく使われる。</p> <p>・ゲストティーチャーを招いた授業を全学年で行う事ができた。例えば、4年の福祉体験授業(点字体験、アイマスク体験など)、6年茶の湯体験、6年模擬選挙、芸術家招聘(網谷幸二氏)など。実施にあたっては、交渉や準備、事務処理などを副校長を中心に行う事が多かったので、組織的に取り組む体制づくりが次の課題である。</p>	<p>・アクティブラーニングやICTをキーワードに共通意識ができるといいのですが。</p> <p>・読み聞かせも含め、親は読書好きになることを願う。</p> <p>・話し合い、発表は苦手な子ども多いが、数をこなすことでよい効果が出る。</p>	<p>・タブレット端末導入の利点を生かして、日常的にICT機器を活用した授業を行うようにする。視覚化についてより一層推進していく。</p> <p>・全ての教科において、共有化の実践を深める。特に、ペアでの話し合いや情報交換を日常的に活用する。</p> <p>・ゲストティーチャーを一層積極的に招いて学習を展開する。各学年の実践の記録を残して、次年度以降も参考にできる、困難なく実施できるようにする。国・都・市などの派遣や支援が受けられるように積極的に動く。</p>	B
	<p>・3年の英語活動の試行を年間11時間行った。AETがリードする授業が多かったため、今後中学年での教材整備や指導計画づくりを行っていき、30年度の3、4年での年間22時間実施に向けて準備する。担任が主となって行う英語活動の授業を目指していく。5、6年では英語活動推進教員が中心となってAETとの連携を図ったり、教材の準備・整備を行った。来年度からの55時間の英語活動を実施することに向けての指導計画の作成と担任が主となる授業の推進が課題である。</p> <p>・特別の教科・道徳の趣旨を踏まえた授業を、道徳授業地区公開講座を中心に行う事ができた。道徳推進教員を中心に、来年度採択となる教科書を使った指導計画作成と教材の整備・蓄積を進めている。</p>	<p>・英語科の交流を充実させていきましょう。</p> <p>・小中が連携し負担のない形で学力向上に向けた取り組みを行ってきたい。</p> <p>・早めの英語活動についていけるように楽しく学べればよいと思う。</p>	<p>・次年度は3・4年生で年間22時間、5・6年生で55時間の英語活動の指導を行う。その計画として、(We can)と(Let's Try)の活用を図って指導実践を重ねる。また、指導体制として3年生以上は各学年1名の担任が英語担当として、その学年の英語授業を行い、指導の経験と実績を積んでいく。31年度は英語担当をより多くの教員に経験させる方向で指導体制を構築していく。指導者は、ALTを活用するが、授業の主体は担任が行うようにする。</p> <p>・英語推進教師を中心とした英語推進部を組織して、教材の整備や指導計画の整備、ALTとの連絡調整やコーディネートにあたる。</p> <p>・中学校との連携を強めて、英語科への移行をスムーズに行えるようにする。</p> <p>・道徳推進教師を中心として、道徳推進部を組織して、教材の整備や指導計画の整備、教科書の活用、道徳授業地区公開講座の実施について推進していく体制を整える。</p>	A
健全育成	<p>・校内委員会を定期的に開催して、不登校傾向児童、特別な支援を要する児童の対応方針を協議・確認することができた。ボランティアの配置や居場所づくりなど、具体的な支援策を考え実行した。</p> <p>・特別支援教室専門員を中心に、かにかやま教室教員と学級担任の協力関係が前進した。効果が表れ、退級を決める児童もできた。</p> <p>・特別支援学級児童と通常学級児童が共に取り組む場として学校行事の場面では普通に活動ができていく。合同学習の場面は難しい点が多い。</p>	<p>・不登校特例校「分教室」も大きな課題です。</p> <p>・八雲台小と七中の地域から不登校が無くなる取り組みができればいい。</p> <p>・近年、特別支援を必要とする子どもが増え、個別には大変と思うが、子どもにとって学校は安らげる場であってほしい。</p>	<p>・不登校傾向児童の解消に向けて、保護者・関連機関との連携を強めていく。また、SCが不登校対策に積極的に関わっていただけるよう校内支援体制を整える。</p>	B
	<p>・「八雲台スタンダード」の作成が始まったが、調整に手間取り、完成していない。年度初めまでに完成させ、周知徹底を図る。</p> <p>・29年度は大きないじめ事案は発生せず、軽微な事案の検討や学期毎のアンケートの実施と対応策の周知を行った。</p>	<p>・小中での、児童・生徒の引き継ぎ、さらに充実させていく代があります。まずは情報の共有化、何でも話せる人間関係づくりが重要です。</p> <p>・いじめの線が難しい。(お互いのすれちがい)</p>	<p>・「八雲台小スタンダード」をもとに全教員が共通に指導事項を認識して、学校全体で同じスタンスで指導できる状況をつくる。</p> <p>・「いじめ対策委員会」の活動内容や学校でいじめをなくすための取組について、保護者や地域に周知していく。</p>	B
	<p>・学級経営の中で、児童への共感的な理解に基づいた指導を徹底するように教員へ指導した。</p> <p>・学年や学級の活動が協力することで充実感を感じることができるとともに、どの学級でもまとまりが感じられる。</p> <p>・保護者の不安や心配を受け止めながら、児童の指導に当たることはこれからの課題である。</p> <p>・教室に入ることでできない児童が2名おり、2学期以来、別室登校である。</p>	<p>・同時に家庭での指導も大事</p> <p>・中学校の特別支援コーディネーターが小学校を訪問し、不登校の児童と関わりをもつようにする。お互いのコーディネーター同士が情報交換できる場を設けていく。</p> <p>・誉めてやる気を出させることが大事。子供が話しかけたときは、きちんと返す。家での関わり方が重要である。</p>	<p>・教師一人一人が「褒めて育てる」「気付かせて育てる」「共感して育てる」「自己決定の場を与えて育てる」の考えに基づいて、一人一人の児童に向き合う指導を徹底する。</p> <p>・保護者会が保護者同士がつながることができる場として機能するよう工夫・改善していく。</p>	A
健康・体づくり	<p>・オリピック・パラリンピック教育推進校として、多くのオリピアン、パラリンピアン、アスリートを招いた授業が実現できた。</p> <p>・コーディネーショントレーニングについては、全校的に盛んにと言えレベルまでにはできなかった。高学年を中心に授業に多く取り入れていた。</p> <p>・クラブ活動に「クラグビー」を創設して、調布市「クラグビー」大会に参加することができた。調布市ラグビー協会の方々の支援を得て、コーチに来ていただくことができた。教員の指導力も高まったと感じる。</p>	<p>・オリ・パラ教育の充実ぶり、大変立派に思います。ここでも連携が考えられるといいのですが…。</p> <p>・コーディネーショントレーニングは初期段階からの継続だと思います。声をかけてください。</p> <p>・なかなか体験できない「ボート」を取り入れることは子どもにも魅力的。</p> <p>・八雲台小の取り組みを今後も積み重ねていってほしい。</p>	<p>・オリピック・パラリンピック教育推進委員会を組織して、ゲストティーチャーの招聘、オリパラ読本の活用、各教科や総合的な学習の時間等での位置づけなどについて明確にして取組を推進していく。</p> <p>・コーディネーショントレーニングについては、体育推進教員を中心に中学校との連携を深め、日々の体育授業の中に取り入れていけるよう研修会等を通じて教員が学んでいく。</p> <p>・次年度もクラブ活動に「クラグビー」を設け、調布市ラグビー協会の支援を受けながら大会参加をする。体育授業にタグを使った運動を位置づけ、低学年からタグに親しませるようにする。</p>	B
	<p>・「命の授業」では、道徳に限らず、様々な教科領域での「命の大切さ」を考える授業の取り組みを行い、教員の創意工夫が見られた。</p> <p>・「世界の料理」は1学期に1回の未実施。最近のオリピック・パラリンピック教育の広がりの中で、今までのように簡単に大使館の支援が得られなくなっていると言う実態がある。今後、どのように進めていくのか検討の時期である。</p> <p>・食物アレルギーの事案が発生した折には、アレルギー対応訓練の経験を生かして、組織的な対応をすることができた。校内での歩行や下校時の注意など、細かな点を地道に共通認識を図って指導することで、少しずつは減ってきている。</p>	<p>・一度八雲台の給食を試食させてください。美味しいと評判なので…</p> <p>・毎年同じ時期に改めて考える「いのち」の大切さを学ぶいい機会である。</p>	<p>・4月の防災教育の日は「防災の授業」、12月のいのちと心の教育月間は「いのちの大切さを考える授業」に取り組むことで、「いのちの授業」を推進していく。</p>	B
	<p>・8割方の児童が休み時間には外に出て遊んでいる。担任が意識して外に出ている学級は外遊びする割合が多いので、1日に1度は担任が外で遊ぶことを推奨している。</p> <p>・ランニングタイム、なわとび旬間は計画通り行う事ができた。</p>	<p>・先生も一緒に外遊びすることは子どもたちの記憶に残り、とても良いと思う。(宮下)</p>	<p>・休み時間の外遊びの指導を徹底する。可能な限り担任も外に出て共に時間を過ごすよう努力する。</p> <p>・体力向上の取り組みとして、ランニングタイム、なわとび旬間の取り組みを改善し、継続する。</p>	B
保護者・連携地域	<p>・PTAの任意加入制については、親友学生説明会や保護者会を通じて、周知している。脱退した家庭は1家庭である。PTAの活動にだれでも参加しやすいように、会議を学校公開のある午後開催する、夜の時間帯に会議が出ないでよいようにするなどできる限りの改善を図ってきた。</p> <p>・地域防災訓練の実施は地区協議会の協力を得て行う事ができた。来年度は、避難所開設訓練などを地域の支えで実施できる様に働きかける。</p> <p>・地域の行事等への教員の参加率は約8割である。学校開放委員会、健全育成委員会、地区協議会との連携する事業がたくさん行われている。</p>	<p>・日頃から地域と連携を強くしておくことで、安心安全を確保できている。</p> <p>・中学進学への不安がある子への対応は非常に難しく大変だと思う。</p>	<p>・PTAの役員とも協力して、今まで築き上げてきたPTA活動ができるだけ行えるように考えていく。保護者の状況を踏まえて、「参加しやすいPTA」の状況をつくる。そのために、会合の持ち方、スクラップアンドビルドの考えで変えていく。</p> <p>・防災訓練のありかた、避難所運営に関する訓練に地域の力を入れていくことに取り組む。</p> <p>・地区協議会、健全育成委員会、学校開放委員会の活動を共にを行い、地域の教育力をさらに高める。保護者がこれらの取り組みを通して、地域との関係づくりを進められるようにする。</p>	C
	<p>・HPの改善の方針の下、新しいHPにスムーズに移行することができた。以前からのHPのよいところもある程度残すことができた。便利なページができたので、好評である。</p> <p>・学校評価では経年評価を工夫したり、児童の意見と比較したりすることで、客観性を高めることができた。提出率が70%に届かず次年度への引き続きの課題である。</p> <p>・学校評議員会、関係者評価委員会では意見を聞きたい事項を明らかにして、会議を行うように工夫した。有益な意見をいただいた。</p>	<p>・HPの更新が早い。見やすい。</p>	<p>・HPの更新作業ができるように、担当者の研修を進める。HPが学校の情報を素早く発信でき、児童の様子を知ることができるようにする。</p> <p>・学校評価で出された意見を誠実に検討して、回答していく。受け入れて対応を変更するところや、変更できないところなどを保護者へむけて発信することで、理解を得ている。</p>	C
特色ある教育活動	<p>・通常学級担任と特別支援学級担任が交流について打ち合わせる時間を確実に設定することは難しかったが、職員室が同じ利点を生かして、日常的に話をする機会が多くなった。</p> <p>・学校行事で一緒に活動する機会は多かった。運動会、移動教室、臨海学園、遠足、社会科見学、給食交流などは当たり前のように一緒に活動しておりそれぞれで班活動を共にするなど、実際にふれあう機会を多くもてるよう工夫している。</p>	<p>・支援級は大手前なので、それだけでも十分上下関係が学べるが、やはり通常級との関わりは非常にお互いに有効である。</p> <p>・支援級は人数が多く、縦の学年のつながりもよくできていて、いい環境になっている。通常の児童から気軽に声をかけてくれると楽しく繋がっていくと思う。</p>	<p>・「共生社会」の実現という大きな目標に向けて、本校では障害のあるなしに関わらず共に学べる学校を目指して、様々な場面で交流及び共同学習を実施していくことを発信して保護者や地域の理解を得ていきたい。</p> <p>・交流に関しての各学年の担任同士の打合せの会を年度初めに設定して、年間の予定を立て、実行していく。</p>	B
	<p>・1学期にレト王国について「世界の料理」を実施することができたが、他の国は各国の情勢やオリピック・パラリンピック教育の広がりのため、簡単に大使館の協力を得ることができなかった。</p>	<p>・子どもたちにはなかなかない機会なので学びも大きいと思う。</p>	<p>・今まで継続してきた「世界の料理」は本校ならではの事業である。昨今のオリピック・パラリンピック教育の広がりによって大使館に直接働きかけることが難しくなっているため、都教委や各種関連機関の支援を受けながら、この取り組みを続けていけるようにする。</p>	B